

教員との懇談会における意見・要望一覧

分類	意見・要望の内容	市及び教育委員会の関連施策	関連する市長マニフェスト
人的支援の拡充等	困難を抱える家庭や子どもへの対応は学校だけでは難しい。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの人員を増やしてほしい。	○スクールカウンセラー配置事業 ○スクールソーシャルワーカー配置事業	No.12: 専門家とも連携して、特別支援教育、いじめ、不登校、引きこもり対策を強化します。
	学級支援員のほか、メンタル面の支援として、養護教諭をもう一人配置してほしい。	○学級支援員派遣経費	
	何か問題が生じた時に、担任の代わりにクラスを任せることのできる教員を配置してほしい。人員を確保することにより、子どもと向き合う時間が拡充できる。		
	小学校の外国語活動では、音楽のように専科の教員を配置してほしい。	○英語指導者招致経費	No.13: 英語教育やICT教育など、時代の変化に柔軟に対応した教育内容の充実を図ります。
	学びノート教室では教員が指導しており、人員が不足している。	○学びノート教室開催経費	
	学校現場で頑張っている臨時採用教員経験者を多く採用してほしい。		
	通常学級において個別に支援が必要な子どもが増えているため、学習支援ができる学級支援員の配置が必要である。	○学級支援員派遣経費	
小学校5・6年生、中学校2・3年生に35人学級を拡充してほしい。	○小学校1～4年生、中学校1年生の35人学級編制		
部活動	教科の研究に重点を置く教員と部活に重点を置く教員など、役割分担し、学校運営の工夫をすることで、負担感が軽減されるのではないか。		
	部活動は、必要な教育活動である反面、外部コーチや保護者の意向により過熱化すると教師は疲弊してしまう。		
	部活動を担当すると教材研究など授業の準備がしっかりできない。		
	部活動の事故なども起きており、以前と比べるとつきっきりの指導が必要である。教師にゆとりがなくなっている。		
	部活動の中で地域の方にコーチをしてもらい教員と一緒に指導できれば、教員も余裕が持てる。	○学校・地域連携推進経費	
家庭や子どもたちの状況	夜に保護者が家にいないことや朝食抜きなど、家庭の状況が厳しく保護者の協力を得られない場合の対応は難しい。保護者の教育力を上げる必要性を感じている。	○家庭教育セミナー ○家庭教育地域リーダー養成講座 ○家庭教育学級 ○ひとり親家庭等日常生活支援事業 ○ひとり親家庭児童訪問援助事業 ○母子生活支援施設措置 ○母子家庭等自立支援教育訓練給付金事業 ○子ども総合相談体制充実事業 ○夜間・休日子ども総合相談経費 ○カウンセリング強化事業 ○一時保護機能強化事業 ○児童入所施設 ○教育相談等経費 ○スクールカウンセラー配置事業 ○スクールソーシャルワーカー配置事業	
	現在は学校・家庭・地域の教育力のバランスが崩れ、学校教育の占めるウエイトが大きくなっている。家庭生活の問題についても学校で対応しなければならない。		
	メンタル的に弱い子どもが増えている。家庭の教育力の問題が、子どもに影響してきている。福祉部門との連携が必要である。		
	特別支援教育は、就学前や小学校の時期に対応できれば、二次障害を防ぐことができたのではと感じることがある。		
	保護者が子どもの暴力などを気軽に相談できる場所を設けることができないか。		

学校施設	不審者対策や子どものアレルギー対応など緊急時の対応をするために、教室や職員室にインターホンを設置してほしい。	○学校施設整備事業	No.10:子どもたちが学習に集中できるような環境整備を推進します。そのため全校全教室にエアコンを設置します。
	アトピー性皮膚炎の子どもは暑さで痒みが増すため、夏にはエアコンが必要である。		
	夏場は、休み時間などには外で遊ぶ子どもたちにとって、体を冷ます時間がないため、エアコンが必要である。		
	学力向上のためには、エアコンが必要である。		
学校運営に関すること	エアコンが入るならば、新年度の学校運営を円滑に進めるために、夏休みを短くし、春休みを延ばしてほしい。		
	学校の状況に応じ、校長裁量でクラス編制や人員配置ができないか。		
教職員の資質向上	諸問題が発生した時の教師の社会対応力が必要である。	○教職員資質向上経費	
	臨時採用教員が多くなっており、研修を増やす等の支援が必要である。		
	現場で若手を育てていく環境も必要ではないか。臨時採用や新規採用教員を見守りながら指導できる体制に、退職後の教員が携われないか。	○授業力向上支援員派遣事業	
地域連携	熊本市版のコミュニティ・スクールの検討など、地域の力を活かしてほしい。	○学校・地域連携推進経費	No.16:地域と学校の連携を強化するため、コミュニティスクール(地域住民が学校運営に参加する制度)などの方策を検討します。
その他	自転車通学の生徒が多く、学校周辺は道が狭いので、安全面から道幅を広げてもらいたい。		No.50:地域との協力によって通学路の一斉点検を行い、危険箇所を解消します。また、スクールゾーンの指定を拡大します。 No.52:自転車の通行マナーの向上、自転車通行路の整備などにより、自転車に関係する交通事故を減らします。 No.4:校庭開放を推進するとともに、公園の禁止事項を見直して、子どもの自由な遊び場を確保することを目指します。
	子どもは放課後や休日などに室内で遊ぶことが多い。子どもの遊び場の確保や公園の禁止事項の見直しはできないか。		
	佐賀県武雄市の図書館に見られるような官民連携施設を検討してほしい。		
	インターネットやSNSに関する悩みや問題は社会を挙げて対応していく必要がある。		